

令和2年度 研究外部評価（事後評価）におけるコメントおよび対応

整理番号	テーマ名	評価点	総合評価
20-C3	柔軟性材料への漆塗膜形成技術の研究	10.5	B
研究期間	平成30年度～令和元年度（2ヵ年）		
研究概要	布や革などの柔軟性材料への耐久性に優れた漆塗り技術を確立し、鞆や財布などのファッション用品の開発を支援する。		
外部評価委員のコメント			
<p>・本研究は柔軟材料への漆塗装の適用を拡大できる有意義で貢献度が高い研究であることは高く評価できます。だからなおさらの事、期待され要求される技術のゴールは高いと言えます。</p> <p>今回の成果をもって100%の終了とせず、市場からのフィードバックを基にさらに高い付着性・耐摩耗性・耐屈曲性の追求を継続的に進めてもらいたいと考えます。</p>			
<p>・漆の活用の多角化として大変有効な研究成果です。まだ商品化には耐久性に対する課題が残りますが、引き続き企業を通じての商品化が期待できます。</p>			
<p>・漆に関する大きな可能性を感じますが、製品化までクリアすべきことが沢山あると考えます。継続的な研究を希望します。</p>			
<p>・質感は良いので、商品化に結び付けていただきたいと思います。</p> <p>・耐久性に関して、追加項目として、屈曲の繰り返しに対する耐久性を加えるべきです。</p>			
<p>・ひび割れしない漆の皮膜研究は成果があったと考えます。</p> <p>素材に弾力のある最適な下地を選択することと、漆塗膜に弾力性・伸縮性を持たせることの両面があり、漆は木など弾力性のない素材に塗る段階から新分野の用途開発に向けて進化したと思います。</p> <p>漆を面で塗るのではなく、ドット（点）で面に仕上げ、面に点として接着して伸縮性を持たせることができるとよいと思います。</p> <p>石川県の伝統産業を技術支援の面から守って欲しいと思います。</p>			
<p>・漆製品のアイテムの幅が広がるものと思います。</p>			
<p>・漆の新しい用途開発に向け、柔軟性のある生地に対し塗装条件確立できたことは評価します。</p> <p>・当技術を活用し新商品開発をサポートすると共に販売につなげるための支援も期待しております。</p>			
<p>・調書の「3. 目標の達成状況」あたりで、当初の目的を超過達成できた点を記述するような作りになっていたら「予想以上の成果をあげた」と評価し易いと思います。</p>			